

研究・教育の質の向上に関する目標を達成するための措置

**国際的に通用する人材の育成**

神戸市外国語大学の特色である少人数による密度の高い語学教育と文化・歴史から社会・経済にわたる幅広い教養教育を更に充実させるとともに、質の高いコミュニケーション能力と情報リテラシー(情報を使いこなす能力)を備え、国際社会において自らの見識に基づいて行動できる人材を育成する。

**1 国際的に通用する人材の育成**

●国際的な知識と柔軟な判断力を持つ「行動する国際人」の養成を本学の教育基本理念として定め、それぞれの言語の特性とその背後に広がる文化にも通じた「洗練された外国語能力」が獲得できる新しいカリキュラムを構築する。(2009 新カリキュラム実施)

**(1) 複数外国語を使える高い語学力の育成**

- 専攻・兼修語学の少人数化(2008以降順次実施)
- 専攻語学以外の言語の充実(2009 兼修ドイツ語・兼修フランス語の充実 など)

**(2) 国際コミュニケーション能力の強化**

- 言語コミュニケーションの理論と実践に焦点を絞り、会議通訳者などのスペシャリストを育成する国際コミュニケーション特別コースを設置(2009 コース設置、2011 TOEFL(iBT)102=TOEIC900以上)
- 学部から修士課程まで一貫したカリキュラム、ダブルマスター制度を検討(2012 検討)

**(3) 情報化社会への対応**

- 情報の集積・共有化を図るとともに、教室環境や情報基盤ネットワークのなどを再編、最適化(2012 5人/PC1台)
- 学生の情報リテラシーを高め、教育工学分野等の人材育成を図るため、関連カリキュラム等を充実(2012 経済産業省標準のITスキル達成)

**(4) 学生アメニティの拡充**

- 学生数増加等に伴う施設拡充(2007 学生会館増築、2008図書館増築 2009以降トイレ改修など順次実施)
- 施設保全計画に基づく計画的な補修(2007以降順次実施)

**(5) 学生への生活支援と進路・就職支援**

- キャリア形成のための講座を充実強化(2007以降順次実施)
- 学生ニーズをより的確に把握し、個別ニーズに対応するため、総合的・専門的な学生支援を整理・充実・強化(2007以降順次実施)

- 新カリキュラム実施(2009年度)に向け、科目再編・履修規程の改正を実施
- FDの取組を行なう委員会を設置

- 兼修英語Ⅰ・Ⅱ階程、専攻中国語Ⅰ階程の少人数化
- 2009年度定員変更に伴うクラス分け等の検討(英米学科+20名、中国学科+10名、第2部英米学科△40名)
- CALL教室を含む情報メディア教室の利用促進策を検討
- 新カリキュラム実施にあわせ、兼修ドイツ語Ⅲ階程・兼修フランス語Ⅲ階程の新設及び研究語学の再編を実施するため履修規程を改正

- 2009年度国際コミュニケーションコース授業開始に向け、教材の準備、応用視聴覚教室の更新などを実施
- 受験生に対し、模擬授業など国際コミュニケーションコースの広報を実施

- 学内ネットワークの更新
- 情報資産の管理、評価及び改善
- 情報科学概論Ⅲを新設、さらにカリキュラム充実に向け検討
- 学内コンテンツのデジタル化を検討

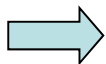
- 図書館閲覧室の増築、図書館へ視聴覚ライブラリーを移設
- 学生会館空調整備の更新

- キャリアデザイン講座の充実
- 就業状況等調査のため、卒業生へのアンケートを拡充
- 学生相談の充実
- 第2部英米学科の実態調査を実施

**高度な研究・教育の推進**

高度な語学力によって海外の最新情報を収集し、紹介するにとどまらず、その背後にある歴史・社会・文化の分析と比較を通して新たな知見を開拓し、その研究成果を国内外に広く発信する「発信型」の研究拠点へと変革していく。

また、教員の活発な研究活動と学外・海外の研究者との交流の中で、修士課程・博士課程の院生を国際的に通用する研究者として育成していく。



**2 高度な研究・教育の推進体制**

**(1)外国学の研究拠点と研究成果の発信**

- 可能な限り多くの教員が申請に参加し科学研究費補助金のさらなる獲得 (2012 新規申請数 24件、獲得件数(新規・継続) 30件)
- アジア言語やヨーロッパ文化など高い水準の研究スタッフを組織化し、大学独自の研究プロジェクトを実施(2010 プロジェクト開始)
- フランス科学院(CNRS)アジア部門、ブータン研究センターとの提携を検討するとともに、ロシア・中国・イスパニア・オーストラリア等の研究機関との提携も模索する。(2007以降順次検討・実施)



**(2)研究と教育をリンクさせた大学院教育**

- より魅力のある大学院づくりを行うため、カリキュラム全体の見直しを行う。(2012 院生が海外の学会発表実施)
- 特色GPの成果の反映及びリカレント・プログラムの特殊性を考慮し、学生満足度の向上を目指す。(2012 学生満足度の充実)
- 院生に海外で研究する機会を提供するため、海外の大学院との提携や院生の派遣を行う。(2007以降順次実施)



- 科学研究費補助金の新規申請数を増加
- 各教員が外部研究資金の獲得に向け積極的な活動が行なえるよう支援策の拡充、支援体制づくりを検討
- アジア言語分野の研究プロジェクト立上げに向け、スタッフの組織化、国際会議開催への準備を実施
- 2007年度に成立した提携先との連携強化、協議を開始した研究機関との協議継続  
(2007提携成立 フランス国立高等研究院(EPHE))  
(2007協議開始 ブータン研究センター、オックスフォード大学東洋学研究所、ボン大学、オーストリアアカデミー)

- 国際的に活躍できる研究者育成に向けた取組を検討
- 魅力のある大学院づくりを行うため、修士課程カリキュラムの見直し及び2007年度に実施したアンケートへの対応について検討
- 特色GPが終了する2009年度以降のリカレント・プログラムの進め方を検討
- ダブルマスター制度等の調査を継続実施し、在籍留学に向けての制度を検討

**地域貢献**

神戸市や地元企業などと連携して、神戸市外国語大学が持つ知的資源を様々な形で地域社会に提供し、文化面・社会面・経済面での活性化を図っていくとともに、神戸市の教育拠点としての役割を担っていく。

**3 地域貢献**

**(1) 社会人を対象にした教育の充実**

- 地域社会の知的需要に対応するため、特定のテーマを系統的に学べる社会人向け講座を新設。(2008 一部実施)
- その他のさまざまな方策について検討(2007 検討体制の構築)
- 第2部の定員削減と新コース設置等を考慮した学部定員の増加(2009 実施)

**(2) 神戸市の教育拠点としての役割の充実**

- 小学校教員を対象に英語教授法などの研修を実施(2009 実施)
- 小・中・高等学校へセミナーや出前授業を実施(2008 実施)
- 商工会議所等で実施する講座などに、本学教員を講師として派遣(2008 実施)

**(3) 推薦入学制度の拡充**

- 推薦入学校の拡大など制度拡充(2009 実施)

**(4) 神戸市教育委員会との連携**

- 全学的な「連携協議会(仮称)」を設置(2007 実施)
- スクールサポーター制度や学校インターンシップ制度への対応を充実するためプロジェクトチームを設置(2008 設置)
- 小学校での英語活動に貢献できる人材を育成、教育実習等への支援体制を構築(2008 支援体制の充実)

**(5) ボランティア活動の支援体制の充実**

- ボランティアコーナーの支援・啓発を充実・実施(2007以降順次実施)

- 後期から新しい社会人向け講座を実施
- 2007年12月より実施している図書館市民利用制度の継続実施
- 2009年度入学生より実施する定員変更に必要な手続きを実施

- 小学校への英語教育支援について、神戸市教育委員会からの要請に応じ、研修計画へのアドバイスや講師派遣を実施
- 「平成20年度神戸市小学校外国語活動指導者養成研修」に協力
- 学校現場のニーズを踏まえ、出前授業の実施を検討
- 商工会議所が主催する講座等への講師派遣を実施

- 2009年度入試より、推薦枠を1名増加(学部 3名、第2部 1名 合計4名/校)
- 対象校拡大など制度拡充について検討

- 「神戸市教育委員会・神戸市外国語大学 連携協議会」において、アクションプランを策定
- プロジェクトチームを発足し、教職志望学生を支援
- 2009年度より小学校教員免許取得制度を実施するため、在学生等へ広報を実施
- 教職相談窓口充実など支援策を拡充

- ボランティア活動支援体制の充実(コーディネーター勤務日数の増)

**国際交流**

留学生や教員・研究者の受入れと派遣などにより教育・研究における国際交流を推進していく。

また、外国語大学の特色と知的資源を活用して、神戸市や地元企業などが政治面・経済面・文化面において行う国際交流を支援する体制を整えていく。

**4 国際交流**

**(1) 国際交流部門の組織的基盤の確立**

- 国際交流センターの体制・機能のさらなる充実 (2007以降順次検討・実施)

**(2) 留学支援体制の充実**

- 交換留学生(短期)の受入をさらに充実するために「日本語教育プログラム」を実施(2008 実施)
- 外国人留学生の生活支援のため「留学生生活支援ボランティア」を組織化する。
- 公費派遣留学制度の充実(2012 交換・派遣留学生の増加)

**(3) 海外の研究教育機関との連携の拡充**

- 海外研究機関からの教員の受入拡充(2012 実施)

**(4) 神戸市および地元企業との国際交流支援**

- 姉妹都市交流など様々な国際交流を支援(2008 実施)
- 学生・院生からボランティアグループの組織化(2008 実施)

- 日本語教育プログラムの新設や交換・派遣留学制度の拡充などを一体的に行なうため、国際交流センターの体制を充実

- 「日本語教育プログラム」を新たに実施
- 「日本語教育プログラム」実施にあわせ、海外への広報活動を実施、留学生生活支援ボランティア組織の立上げなどを実施
- 新たに短期留学の実現に向けた協議を実施
- 交換・派遣留学提携先の開拓

- 教員の交流先について、引き続き調査

- 国際交流を支援するボランティアグループを組織化し、支援活動を実施

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2008年度 年度計画の概要

柔軟で機動的な大学運営

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。

業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するための措置

1 運営体制の改善

- 自律的・効率的な大学運営 (2007 理事会設置、委員会再編)
- 迅速で戦略的な意思決定制度 (2007 理事補佐、経営企画室設置など)
- 学外との情報の受発信 (2007 既存広報媒体の見直し・充実)

2 人事の適正化

- 雇用形態の多様化 (2007以降順次実施)
- 業績評価システムの導入 (2007以降順次実施)
- 人材育成の推進を図る。特に事務職員に対し大学業務の高度化・専門化へ対応するために、研修等を実施 (2007 研修計画策定)
- 意欲向上に適した手当の見直し など

3 事務などの効率化・合理化

- 専門職員を順次配置し、サービスの質を向上 (2007以降順次実施)
- 事務組織・執行体制の見直し (2007 実施)
- 事務処理の簡素化・効率化 (2007 実施)

財務内容の改善に関する目標を達成するための措置

1 外部研究資金その他の自己収入の確保

- 学生納付金の定期的な見直し・適正化の検討実施 (2007 順次実施)
- 大型科学技術研究費など外部研究資金の獲得
- 多様な自己財源の確保 (2007 順次検討実施)

2 経費の抑制

- 総人件費の抑制及び管理運営コストの削減 (2007 管理運営業務の総点検 など)
- 戦略的な予算配分が行える仕組みを構築

3 資産の運用管理の改善

- 学舎等老朽施設・設備の計画的な改修 (2007 順次実施)
- AV教室等学内ネットワークの整備 (2012 AV教室利用率65%)
- 資産の積極的活用と適正な利用料の設定 (2007 利用金再設定)

- 理事長・理事の選考方法を決定
- 年度計画の進捗状況を定期的に把握
- 外部への広報充実 (ホームページの充実)
- 特任教授・客員教授制度の確立、職員配置計画にもとづく事務職員採用試験を実施
- 業績評価制度 (教員) の調査検討
- 外部の研修制度の活用も含め、職員に対し、研修を実施
- 裁量労働制に移行した教員の手当制度 (ユニット制) 対象業務を拡大
- 事務事業、事務分掌及び組織の定期的な見直し制度を確立
- サービスの質的向上に向け、専門知識を持つ人材を配置 (キャリア支援、国際交流、情報関連など)

- 適正な学生納付金の検討、収納方法の多様化を検討
- 2009年度科学研究費補助金新規申請件数を増加
- 各教員が外部研究資金の獲得に向け積極的な活動が行なえるよう支援策の拡充、支援体制づくりを検討
- 寄附受入の継続実施、大学施設の外部利用促進
- サービスの質的向上を図りつつ、雇用の多様化、適正な人員配置などを行ない、総人件費を抑制
- 自己点検・評価結果を予算配分に反映する仕組みを検討
- 老朽施設・設備の改修にあわせ、省エネルギー化を推進
- 学内LANの更新などにより教育研究環境を改善
- 図書館市民開放の継続実施、大学施設の外部利用促進

中期目標に掲げる基本目標

中期計画の概要

2008年度 年度計画の概要

**柔軟で機動的な大学運営**

理事長兼学長の適切な運営の下に学外からの意見も積極的に採り入れ、時代と社会の変化に迅速に対応し、自律的で効率的な大学運営を行う。

**点検及び評価並びに情報の提供に関する目標を達成するための措置**

**1 評価の充実**

- 理事長直属の委員会を設置し、中期計画・年度計画の達成度等を評価(2007 委員会設置)

- 評価結果の公表

**2 積極的な情報公開**

- 説明責任を果たすため、法人業務運営状況を公開(2007 順次実施)

**その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置**

- 環境マネジメント活動を継続(2007 継続実施)

- 災害等に対する危機管理体制を確立(2007 マニュアルの策定)

- 適切な情報管理(2007 情報管理体制の整備)

- 法令順守

- 内部統制機能の確保(2007 内部統制システムの構築)

- 2007年度自己点検評価結果を2008年度実施事業へ反映する仕組みを構築

- 大学運営情報を適切に公開

- 電力使用料等の削減、大学周辺の美化活動の実施

- 防災訓練の実施を通じ、危機管理マニュアルの検証・改善を実施

- 適切な情報管理を行なうため、文書を含む情報資産全体のライフサイクルを管理

- コンプライアンスに関するマニュアルの作成、教職員への啓発研修を実施

- 内部統制システム運用マニュアルにもとづき、啓発研修を実施